

「34,000年前、墨古沢は日本の中心であった」

予稿集



期 日 令和2年12月5日（土）  
場 所 プリミエール酒々井 文化ホール  
主 催 酒々井町・酒々井町教育委員会

**墨古沢遺跡国史跡指定1周年記念シンポジウム**  
**「34,000年前、墨古沢は日本の中心であった」**

令和2年12月5日（土）  
ブリミエール酒々井 文化ホール

開場・受付 12:00～

開 始 12:30

◆開会・趣旨説明 12:30～12:40

◆基調報告

1. 12:40～13:20 (40分)

「列島の環状ブロック群の分布とその特徴」

村井大海 （長野県埋蔵文化財センター 調査研究員）

2. 13:20～14:00 (40分)

「下総台地の環状ブロック群：最新の研究成果から」

新田浩三 （公財）千葉県教育振興財団文化財センター 上席文化財主事）

3. 14:00～14:40 (40分)

「墨古沢遺跡の年代と自然環境」

工藤雄一郎 （学習院女子大学 国際文化交流学部日本文化学科 准教授）

休 憩 (20分) 14:40～15:00

◆基調講演 15:00～16:00 (60分)

「34,000年前、墨古沢は日本の中心であった」

佐藤宏之 （東京大学 文学部考古学研究室 教授）

◆討論・質疑応答 16:10～16:50 (40分)

◆閉 会 16:50

【参加にあたりコロナウィルス感染拡大予防にご協力ください】

- マスクを着用し、手指消毒や咳エチケットの徹底についてご配慮願います。
- 発熱のある方、体調の著しく悪い方は参加をご遠慮ください。
- 参加者同士の距離を保ち、密集状態にならないように心がけてください。
- 発表者・スタッフ及び会場での感染予防対策を行わせていただきます。
- 感染が疑われる者が当日参加者内で発生した場合、必要な情報提供を行います。

# 目 次

## 目次・例言

### 開催趣旨

「開催にあたって」酒々井町教育委員会 ・・・・・・・・・・・・ 2

### 基調報告 1

村井大海 「列島の環状ブロック群の分布とその特徴」 ・・・・・・ 6  
(長野県埋蔵文化財センター 調査研究員)

### 基調報告 2

新田浩三 「下総台地の環状ブロック群：最新の研究成果から」 ・・・ 10  
(公財)千葉県教育振興財団文化財センター 上席文化財主事)

### 基調報告 3

工藤雄一郎 「墨古沢遺跡の年代と自然環境」 ・・・・・・・・ 12  
(学習院女子大学 国際文化交流学部日本文化学科 准教授)

### 基調講演

佐藤宏之 「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」 ・・・・ 14  
(東京大学 文学部考古学研究室 教授)

### 附 編

酒井弘志 「全国環状ブロック群集成 2020」 ・・・・・・・・ 16  
(酒々井町教育委員会 生涯学習課)

## 例 言

1. 本書は令和 2 年 12 月 5 日に開催する国史跡指定 1 周年記念シンポジウム「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」の予稿集である。
2. 本書の編集は、シンポジウムの企画・運営を担当した酒々井町教育委員会生涯学習課がおこなった。
3. シンポジウムの開催及び予稿集の作成にあたり多くの方々、関係機関よりご協力を賜った。記して感謝の意を表したい。

## シンポジウム開催にあたって

酒々井町教育委員会

**I 墨古沢遺跡**は千葉県印旛郡酒々井町南部の墨地区に所在する面積約27万m<sup>2</sup>を超える旧石器時代、縄文時代、中世～近世初頭を主体とする遺跡である。

環状ブロック群は千葉県文化財センターによる、平成11・12年度の東関東自動車道酒々井パーキングエリア拡張工事に伴う緊急発掘調査により発見され、その際に立川ローム層第IX層上部（IXa層・約3万4千年前）から開発予定地内に所在する西側約1/3について発掘調査が行われた。

扇状に並ぶ29カ所のブロックとそれらに伴う20カ所の付随ブロックから、狩猟具であるナイフ形石器・台形様石器・工具である削器・石錐・楔形石器・局部磨製斧石調整剝片等を主体とした計3,946点の石器が出土し、またブロック間をまたぐ接合資料も豊富に確認され、日本国内でも最大級の環状ブロック群であることが推察された。

**II 酒々井町**ではこの貴重な文化遺産を後世に保存し、かつその内容を広く一般に周知して文化財の保存・普及活動に寄与するため、また既存の町施設・周辺諸施設との好立地・好環境から考える観光拠点として、墨古沢遺跡の普及・利活用を積極的に図っていきたいと考え、その第一段階として環状ブロック群の東側部分がどのような状況であるか、その規模や遺存状態を確認し、学術的な価値づけを行ったため、平成27～30年度に範囲確認調査を実施した。

その3カ年に及ぶ範囲確認調査の結果、環状ブロック群の残り東半についての遺存状況もよく、また当初の予想分布範囲をはるかに超えた広がりをみせ、これにより規模が南北70m×東西60m、遺存率も6割強となった。この成果により環状ブロック群全体では、ブロック数は70カ所以上、石器の総点数も1万点をこえるものと推察され、規模・ブロック数・石器総数においても、非常に大規模かつ日本最大級を誇るものであることが判明した。

石材には群馬県域のガラス質黒色安山岩が7割以上使用され、また信州、伊豆諸島の神津島、栃木県高岡山産の黒曜石が使用されたことが石器石材の原

産地分析から推定されている。またその他にも、主に北関東からもたらされたと考えられる玉髓、トロトロ石、流紋岩などが用いられたと推察でき、この遺跡を営んだ人々が広域を移動し、更に遠方の集団とも交流を行っていたことがうかがえた。

さらに出土炭化材の年代測定（AMS法）により環状ブロック群の年代がおよそ3万4千年前であることが判明したこと、花粉分析・出土炭化材の樹種同定やローム層のプラントオバールにより当時の古環境が判明したこと、ローム層のテフラ（火山灰）・鉱物分析により石器の出土層位が立川ロームIX層中部～上部であることが確認できたこと、遺跡立地の微地形を確認する調査結果により、環状ブロック群形成にあたり自然の凹地を選地していた可能性があることが判明するなど多くの自然科学分析の成果も得られている。

**III** このように墨古沢遺跡からは後期旧石器時代の人々の移動や交流、生業活動や集団関係について知ることができ、日本の旧石器時代を解明するうえで、また日本の旧石器時代史を語るうえで欠かすことのできない存在である。

これらの成果を受け、墨古沢遺跡は令和元年10月16日に国史跡の指定を受けた。

私たちはこの史跡墨古沢遺跡を末永く後世に保存していくことは言うなでもなく、遺跡のもつ価値・特性を十分に理解・整理することにより、今後の保存・周知・活用に活かしていくことが必要とされる。

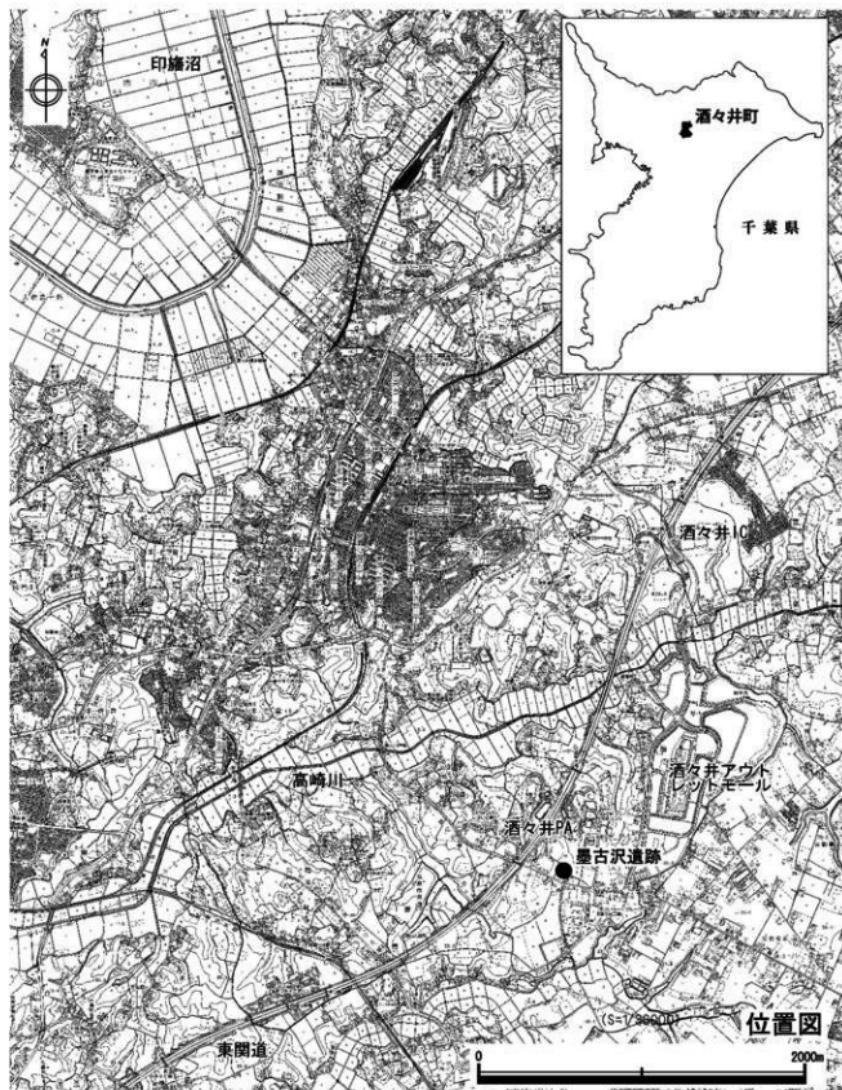
**IV** そのような背景のもと、保存・活用の第二段階として令和元年度から『史跡墨古沢遺跡保存活用計画』の策定が始まった。その内容検討が進む中で、史跡墨古沢遺跡の価値や特徴、今後の方向性などが抽出されていく一方、アンケート結果などから一般の方々には「旧石器時代」「環状ブロック群」「墨古沢遺跡」についてまったくというほど認知度が低く、内容の周知が十分に図られていない事実も明らかになった。

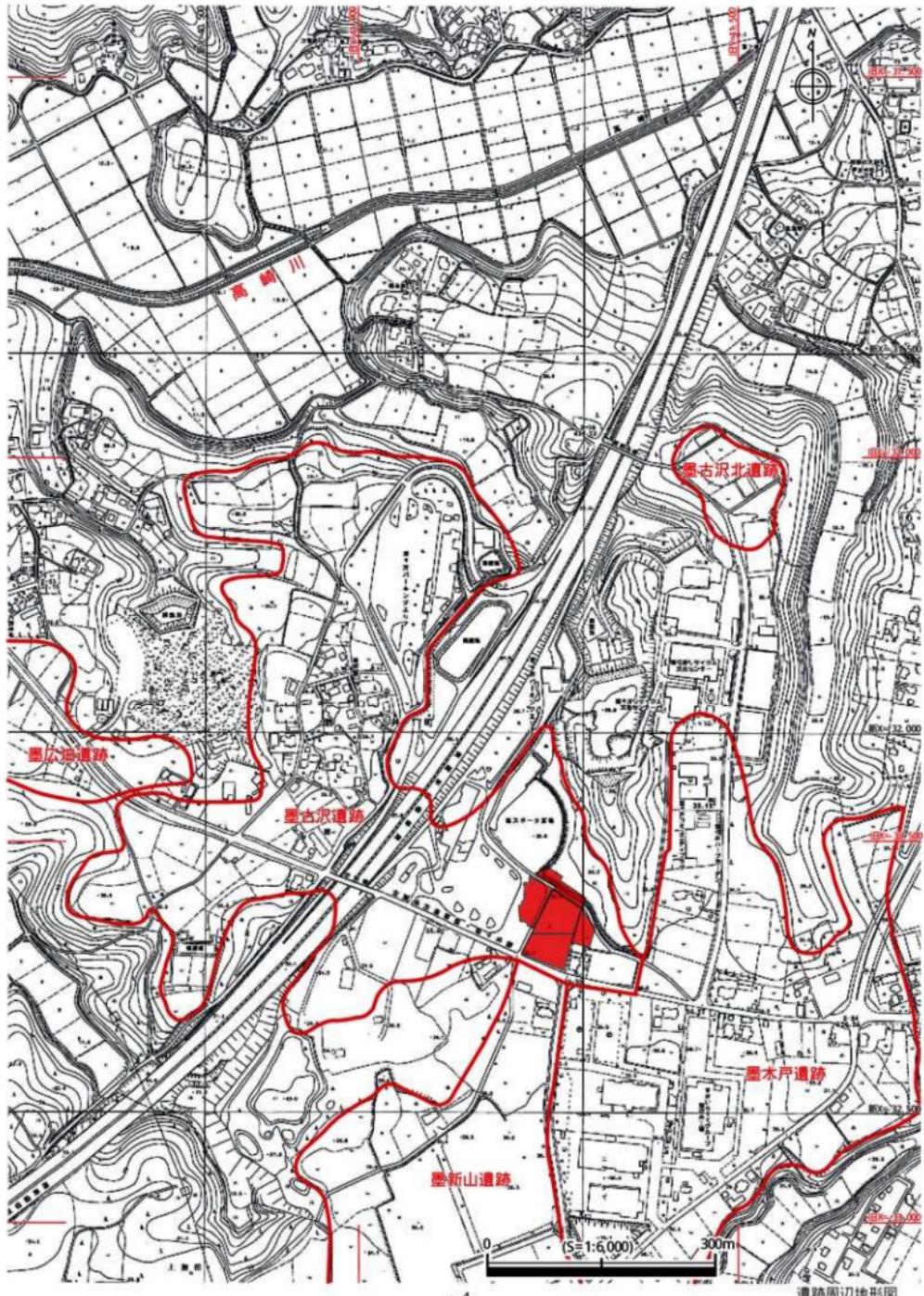
そこで私たちは、まず一般の方々に史跡墨古沢遺跡を知ってもらうことを第一の目的とし、史跡の内

容を理解・周知するための本シンポジウムの開催を企画した。一般の方々が興味を引くための大膽なタイトルもそのためである。

日本旧石器時代三大特徴としての環状ブロック群、その環状ブロック群の約半数が下総台地で検出されている事実、その中でも日本最大級の規模を誇る史

跡墨古沢遺跡がどのような遺跡であるのか、その存在や成立にはどのような背景があるのか、本シンポジウムを通じ、タイトル「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」意味の一端が明らかにできればと考えている。





# 墨スポーツ広場

・35.8

32.7

酒々井線

5.2

35.5

35.9

0 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95 100



●	出土石器
■	調査トレンチ・試掘坑
□	調査範囲
■	縄文時代の遺構保護面
---	環状ブロック群の範囲想定線

史跡指定範囲

100m

# 列島の環状ブロック群の分布とその特徴

長野県埋蔵文化財センター  
調査研究員 村井 大海

## はじめに

環状ブロック群は橋本勝雄氏によって、群馬県和田遺跡および下触牛伏遺跡において認識された特殊な石器の出土(石器ブロックが中央域とそれを囲む円環部によって有機的集合体を呈する)状況を発端として、類例を集成した結果、同様の石器出土状況を示す遺跡が後期旧石器時代前半期に限って認められるという時間的限定性を確認したことから命名された(橋本・須田良平 1987)。認識当初は、環状ブロック群から出土する斧形石器を伴う石器群が汎日本的な性格を有していることから、全国的に展開する遺跡と目されていたが(橋本 1989)、集成が進むにつれ、地域的立地状況<sup>①</sup>には差異が認められ、特に北海道は類例が 1 例のみ、九州・四国では確実な遺跡は認められないと指摘される(小菅将夫 2000、橋本 2010)。

分布の地域差は、調査範囲や掘削深度の制約など、旧石器時代の社会的要因とは無関係な事情が反映される場合がある。特に環状ブロック群の場合、認識するには広範囲の調査が必要となり、また後期旧石器時代前半期の遺跡は地中深くに埋没しているため、これらの制約が遺跡発見に与える影響は大きい。ただし、一般にローム層の堆積が薄い東北地方では、関東地方に比べ環状ブロック群の分布は希薄であり、分布の濃淡が必ずしも調査の制約によるものではないことも事実である。

そこで本稿では、後期旧石器時代前半期に日本列島に展開する環状ブロック群の分布を概観し、その特徴から当時の人々の行動戦略の考察を試みたい。

## 日本列島環状ブロック群集成

本題に入る前に、日本列島における環状ブロック群の概要と墨古沢遺跡の特質をまとめておきたい。酒々井町教育委員会の集成結果から、現在 146 か所(118 遺跡)の環状ブロック群が確認されている(酒井弘志・村井大海編 2019)。

環状ブロック群は横長・幅広の剥片を素材とする台形様石器と石刀・縱長剥片を素材とする尖頭形石器の 2 つの異なる技術を使い分ける二極構造(佐藤宏之 1992)に斧形石器が伴う共通した石器群を保有すると

れる。日本列島の旧石器時代遺跡データベースによれば、環状ブロック群と同様の石器群を保有する遺跡/文化層は概算 1400 を数える(日本旧石器学会編 2010)。1400 遺跡/文化層のうち、環状ブロック群と認められる遺跡は約 8%となる。環状ブロック群が後期旧石器時代における一般的な集落形態とは異なることは明らかであろう。

これらの環状ブロック群には大小さまざまな規模が見受けられる。規模を評価するためには以下の 3 つの要素が重要と考える。①集落を構成した集団の規模や数を反映する石器ブロック数、②集落での活動量を反映する出土石器数、③集落の大きさを指示示す円環の大きさである。石器ブロック数は平均 11.57 か所、中央値 9 か所で 5、6 か所、9、10 か所、14 から 18 か所で構成される遺跡に数のピークが認められ、20 か所を超える遺跡は少ない(第 1 図)。のことから石器ブロック数を A 類=20 か所以上、B 類=13~19 か所、C 類=7~12 か所、D 類=6 か所以下、に分類する。出土石器数は 100~199 点、200~299 点に最も多くの遺跡が認められ、400~499 点、700~799 点、1400~1499 点、1600~1699 点にも遺跡数のピークが認められ、2000 点以上の遺跡は少ない(第 2 図)。以上の傾向をもとに、I 類=2000 点以上、II 類=1000 点以上 2000 点未満、III 類=600 点以上 1000 点未満、IV 類 600 点未満に分類する。以下、2 つの類型を組み合わせ A I 類、B II 類…と類型化する。例えば、石器ブロックが 20 か所以上で、出土石器数が 2000 点以上の遺跡は A I 類、石器ブロックが 7~12 か所で出土石器数が 600 点以上 1000 点未満の遺跡は C III 類となる。円環部の径は東西径と南北径で計測している。東西径は最大 72m、平均 25.23m、中央値 22m、南北径は最大 80m、平均 25.37m、中央値 22m である。類型と円環部径の関係を見ると、円環部径が増大すれば、石器ブロックおよび出土石器数も増大し、逆に円環部径が減少すれば石器ブロックおよび出土石器数も減少する、正の相間を示すことがよくわかる(第 3 図)。一般的な環状ブロック群の円環部径は東西径、南北径とも 30m 以下で、石器ブロック数 13~19 か所以

下、出土石器数 1000 点未満である。墨古沢遺跡の場合、東西径 60m、南北径 70m を測る。A I 類の環状ブロック群であるが、同等の規模を誇る環状ブロック群は、墨古沢遺跡以外では 3 遺跡しか存在しない(千葉県大松遺跡、栃木県上林遺跡、長野県貫ノ木遺跡)。これらの遺跡は文字通り最大規模の環状ブロック群と位置づけることができ、墨古沢遺跡の特質も、この最大規模という言葉に集約される。

### 環状ブロック群の分布

環状ブロック群は沖縄・四国・島嶼部を除く、北海道から九州かけて広範囲に分布する。小菅氏や橋本氏が指摘するように北海道では 1 例、九州では 2 例、四国には分布せず、先学が指摘した特徴を改めて確認することができる。また、東北地方や西日本においても希薄であり、関東、静岡県東部、中部高地の範囲に集中し、132/146 か所(約 96%)が分布する。先にも触れたが、遺跡の分布は発掘調査の範囲・掘削深度等、現代社会の事情が反映されるが、この偏在性をそれだけで説明することは困難と思われる。環状ブロック群が同様の石器群を有する遺跡のうち約 8% しか認められないという特殊性、さらに日本列島の後期旧石器時代前半期に限って認められるという限定性も考慮すれば、環状ブロック群の分布傾向には、時期と地域に規定された社会的要因が影響していると考えざるをえないものである。

さらに、環状ブロック群が集中する関東・静岡県東部・中部高地の範囲において、特に密集して分布する地域が 3 か所認められる。千葉県下総台地、群馬県赤城山・榛名山南麓、長野県野尻湖である(第 4 図)。

千葉県下総台地には 71/146 か所(約 49%)、環状ブロック群の約半数が分布する最大の密集地帯である。量もさることながら、最大級の規模を誇る墨古沢遺跡と大松遺跡、斧形石器が大量に出土した南三里塚宮原第 1 遺跡や瀧水寺裏遺跡、複数の環状ブロック群が発掘された例が 15 遺跡認められる等、その内容も非常に豊富である。

群馬県赤城山・榛名山南麓には 29/146 か所(約 20%)が分布する。下総台地には及ばないものの、他地域と比較すれば、分布密度には特筆すべきものがある。墨古沢遺跡に匹敵する最大規模の環状ブロック群は認められないが、それに準じる三和工場团地 I 遺跡(A II 類)や下触牛伏遺跡(B I 類)等が認められ、2 か所の環状ブ

ロック群が発掘された例も 4 遺跡ある。環状ブロック群を認識する契機となった和田遺跡、下触牛伏遺跡もこの地に分布しており、学史上も重要な地域である。

長野県野尻湖は 9/146 か所(6%)と、数字の上では上記 2 地域ほどの密集地帯には見えないかもしれない。しかしながら、下総台地はその分布が広範な台地全体に、赤城山・榛名山南麓も広範な山裾の扇状地や河川流域に展開する一方、野尻湖の場合、その沿岸の非常に狭い範囲に 9 か所の環状ブロック群が隣接して分布しており、その分布密度は 2 地域と遜色ない。最大規模の貫ノ木遺跡や、斧形石器の出土が日本最多の日向林 B 遺跡、複数の環状ブロック群が発掘された例が 3 遺跡と、内容も豊かである。

### 環状ブロック群の分布と形成要因

日本列島における後期旧石器時代前半期の社会的要因が環状ブロック群の分布に影響をあたえると仮定すれば、これら 3 地域には地理的な共通点が認められ、その共通点こそが旧石器時代の人々が環状の集落を形成する際の重要な因子になったと考える。3 地域の共通点とは何であろうか。筆者は 3 地域が旧石器時代の人間集団の移動ルートの要衝であったと推定している。下総台地は日本で、最も広大な面積を持つ台地であり、狩猟を生業とした移動生活を営む旧石器時代の人々にとって重要な狩場であった。さらに、この台地は下野-北総回廊(田村 2007)によって北関東と地形的に接続し(第 5 図)、人間集団の往来が活発であったと思われる。赤城山・榛名山南麓は優良な狩場である関東平野から黒曜石原産地を抱える中部高地に向かう峠道の玄関口にあたり、やはり人間集団は頻繁にこの地を往来したであろう。野尻湖は中部高地から日本海側に向かう際の中繼点にあたる。本州は太平洋側から日本海側を往来する際に急峻な山越えが必要となるが、野尻湖を経由するルートは比較的緩やかに山越えが可能であり、食料資源の確保も他のルートよりも容易であったと考える。旧石器時代の人間集団は積極的に野尻湖ルートを利用し、活発な往来があったのだろう。人間集団の移動ルートの要衝に環状ブロック群が形成される状況は密集地帯に限ったことではなく、兵庫県七日市遺跡は瀬戸内海と京都府の山間部を抜け日本海に至る氷上回廊に分布している。

人間集団が活発に往来した地域では、複数集団が一同に会する機会が発生したと思われる。したがって環

状ブロック群は複数集団が集住した結果形成された集落形態と考える。また、環状ブロック群を形成した複数集団は、墨古沢遺跡の石器接合資料および石材の分析成果から、出自を異なる集団の集まりであったと思われる。集住 자체は後期旧石器時代全般に行なうことが可能であるが、環状ブロック群はその前半期に限って見られる集住形態である。したがって、その形成要因には後期旧石器時代前半期に特有の事情が影響していると思われる。筆者は特に当時の環境が重要な要因であったと考えている。工藤雄一郎氏によれば、後期旧石器時代前半期は晩氷期とならび、気候が短期的な変動を繰り返した「不安定」な時期にあったとされる(工藤2010)。環状ブロック群は当時の人々が、「不安定」な気候に対応するために集住し、周辺の情報を収集して、その後の行動戦略を立てるための「情報収集拠点」であったと考える。一方、後期旧石器時代後半期は寒冷ながらも「安定」した気候となり、「不安定」な気候に対応するための集住は不要となった結果、環状ブロック群が形成されなくなったと推定する。

#### おわりに

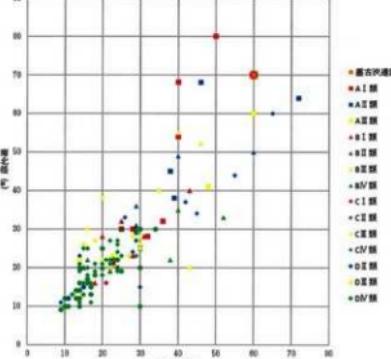
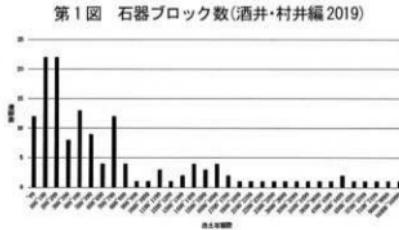
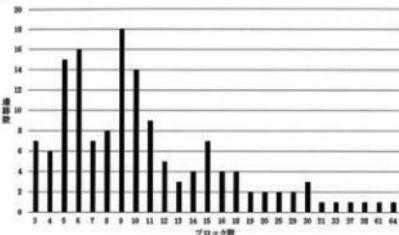
環状ブロック群は、当時の環境および分布の特徴から人間集団の移動ルートの要衝において、出自を異にする複数の集団が集住し、「情報収集拠点」として機能した。それは狩猟を生業とした移動生活をおくる後期旧石器時代前半期の人々が、「不安定」な気候に対応するための行動戦略であった。

#### 註

(1) 本稿では、遺跡の地域的立地状況を指す言葉として「分布」を使用し、それぞれの遺跡における石器の平面出土状況を指す場合には「出土状況」という言葉を用いる。

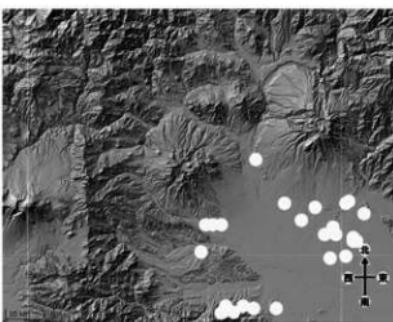
#### 【参考文献】

- 工藤雄一郎 2010 「旧石器時代遺跡における年代・古環境論」『講座日本の考古学1 旧石器時代 上』 青木書店
- 小菅得夫 2000 「環状ブロック群の構造」『考古学ジャーナル』No.465 ニュー・サイエンス社
- 酒井弘志・村井大海編 2019 『墨古沢遺跡総括報告書』酒々井町
- 佐藤宏之 1992 『日本旧石器文化の構造と進化』 桜書房
- 佐藤宏之 2006 「環状集落の社会生態学」『旧石器研究』第2号 日本国石器学会
- 田村 隆 2007 「第二章 景観の中の遺跡」『千葉県の歴史』通史編原始・古代 千葉県
- 日本旧石器学会編 2010 『日本列島の旧石器時代遺跡』日本旧石器学会
- 橋本勝雄 1989 「AT降灰以前における特殊な遺物分布の様相」『考古学ジャーナル』No.309 ニュー・サイエンス社
- 橋本勝雄 2006 「環状ユニットと石斧の櫻り」『旧石器研究』第2号 日本国石器学会
- 橋本勝雄 2010 「ナイフ形石器文化前半期の居住様式」『講座日本の考古学1 旧石器時代 下』 青木書店
- 橋本勝雄・須田良平 1987 「旧石器時代」『考古学ジャーナル』No.277 ニュー・サイエンス社

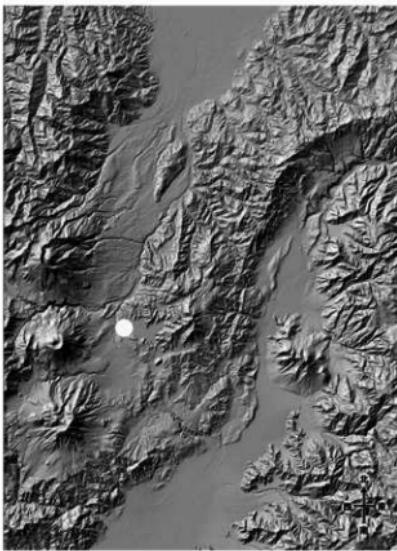




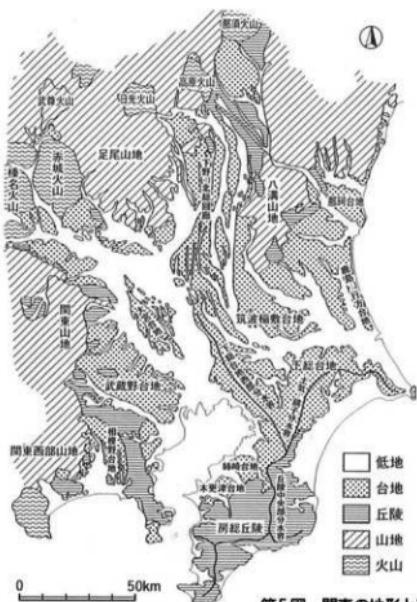
第4図-1 環状ブロック群密集地帯の位置



第4図-2 群馬県赤城山・榛名山南麓(○が遺跡)



第4図-3 長野県野尻湖(○が遺跡)



第5図 関東の地形と下野-北總回廊(田村2007)

# 下総台地の環状ブロック群：最新の研究成果から

(公財)千葉県教育振興財団  
上席文化財主事 新田 浩三

## 1.はじめに

下総台地の環状ブロック群は、53遺跡 71基が確認されている(酒々井町 2019)。時期的変遷は、①X層上部段階：御山遺跡。②IX層下部段階：南三里塚宮原第1遺跡・池花南遺跡・東峰御幸畑西遺跡エリア3、市野谷芋久保遺跡・閑畑遺跡。③IX層中部段階：墨古沢遺跡・小山台遺跡・四ツ塚遺跡・東峰御幸畑西遺跡エリア2、東大野第2遺跡・泉北側第3遺跡。④IX層上部段階：東峰御幸畑西遺跡エリア1、原山遺跡第II文化層。4つの段階の変遷が窺える。大型の環状ブロック群は③IX層中部段階に多い。

## 2. 環状ブロック群の最新の調査成果

環状ブロック群の遺跡は次の6つの地域に遺跡群が形成されている。各地域の主要な遺跡を列举し、そのなかで最新の調査成果の遺跡を紹介する。

### (1) 印旛沼周辺の遺跡群

環状ブロック群の遺跡が最も多い地域で、酒々井町墨古沢遺跡・印西市泉北側第3遺跡・角田台遺跡・瀧水寺裏遺跡。

### 墨古沢遺跡（第1図）

平成11・12年度に酒々井バーティングエリヤ拡張工事に伴う調査で、環状ブロック群の西側が調査され、平成27~29年度に東側の調査が行われた。西側の調査成果をもとに、環状ブロック群集落形成を考察した結果、複合一体型のモデル提示をした(新田 2005)<sup>1)</sup>。複数の扇状ブロック群を構成要因として、集團をまとめ上げるために、中心部を中心として求心的作用によって大規模な環状ブロック群が形成されたと推察した。今回の特筆される成果は、中央部の凹地を選地し、複数の集團が凹地を目指(ランドマーク)として集結した可能性が高いといえよう。

### (2) 成田空港地区とその周辺の遺跡群

成田市東峰御幸畑西遺跡・南三里塚宮原第1遺跡。

### (3) 四街道市内黒田・物井地区的遺跡群

四街道市池花南遺跡・御山遺跡。

### (4) 柏市・流山市の遺跡群

柏市中山新田I遺跡・小山台遺跡・大松遺跡・原山遺跡・流山市市野谷芋久保遺跡。

## 小山台遺跡（第2図）

IX層中部から円環部・中央部・外部の3つのブロック群が検出された。長径70m×短径50mの大規模な環状ブロック群が形成されている。総計1,672点の石器が出土し、14か所の集中地点が検出された。約50m離れた接合資料が数個体、多数のブロック間接合資料が見られた。接合状況をブロックごとに分析すると、円環部・中央部・外部の3つのエリアに核となるブロックがあり、この接合核ブロックを経由して、集落全域に石器が行きわたるような接合状況を示していることが窺えた(新田 2017)<sup>2)</sup>。

### (5) 山武市の遺跡群

山武市四ツ塚遺跡・八幡神社北遺跡。

### 四ツ塚遺跡（第3図）

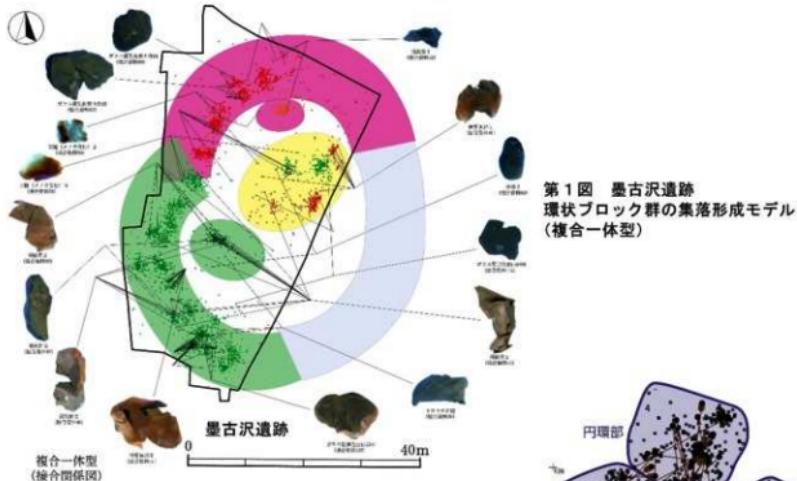
IX層中部から総計約4,400点の石器と74か所のブロックが検出された。圏央道・東金道路二期・調子連絡道の3つの事業により発掘調査され、それぞれの事業からブロックが検出された。なかでも、東金道路二期の調査区域では、環状ブロック群が2基近接して検出され、環状ブロック群間の接合資料がみられた。環状ブロック群の石器群中に、達山技法によるものもみられる。広範囲に本段階の石器群が同じ等高線上にブロック群が形成されていることが窺えた(新田 2020)<sup>3)</sup>。

### (6) 市原市・袖ヶ浦市の遺跡群

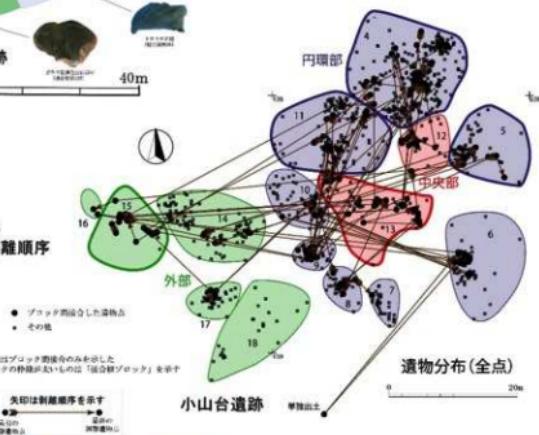
市原市草刈六之台遺跡・袖ヶ浦市閑畑遺跡。

## 註（主な参考文献のみ掲載）

- 1) 新田浩三 2005「酒々井町墨古沢南I遺跡 旧石器時代編」『東関東自動車道水戸線酒々井PA埋蔵文化財発掘調査報告書1』(財)千葉県文化財センター
- 2) 新田浩三 2017「柏市小山台遺跡 旧石器時代編」『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書10』(公財)千葉県教育振興財団
- 3) 新田浩三 2020「成田市夜番I遺跡・横芝光町達山天ノ作遺跡・横芝光町四ツ塚遺跡・山武市四ツ塚遺跡』『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書36』(公財)千葉県教育振興財団



第2図 小山台遺跡  
ブロック間接合と剥離順序



第3図 四ツ塚遺跡  
区層中部のブロック群

## 墨古沢遺跡の年代と自然環境

学習院女子大学  
国際文化交流学部 日本文化学科  
准教授 工藤 雄一郎

### 墨古沢遺跡の年代

千葉県では日本列島でも最も多くの後期旧石器時代の環状ブロック群（53遺跡 71箇所）が発見されているが、これまでに出土した炭化物を用いて放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) 年代測定が実施された例はほとんどなかった。しかしながら、遺跡の正確な年代を明らかにすることは、後期旧石器時代の人の動きや文化的な変遷、当時の自然環境などを総合的に考えうえで極めて重要である。また近年では、後期旧石器時代前半という 3万年前を遡るような古い時期でも、数mgの微量な炭化物があれば年代測定が可能となっている。 $^{14}\text{C}$  年代を正確な暦の年代に変換する暦年較正曲線も数年おきにアップデートされている。そのため、発掘調査で環状ブロック群に伴う炭化材などが検出されれば、遺跡の正確な形成時期を推定することができる。墨古沢遺跡では、これまで數十点の炭化物を範囲確認調査で採取することができた。

筆者等は、これまで墨古沢遺跡の環状ブロック群とその周囲から出土した 31 点の炭化材の  $^{14}\text{C}$  年代測定を実施した。その結果、年代的なまとまりからみて、以下の 5 つのグループに区分された（図 1）。

- ① 繩文時代以降の擾乱に関係する一群（2 点）
- ②  $^{14}\text{C}$  年代で 25,000～21,000 年代の一群（6 点）  
(約 30,500～25,000 年前)
- ③  $^{14}\text{C}$  年代で 28000～27000 年代の一群（2 点）  
(約 31,700～31,000 年前)
- ④  $^{14}\text{C}$  年代で 30,000～29,000 年代の一群（16 点）  
(約 34,000～33,200 年前)
- ⑤  $^{14}\text{C}$  年代で 31,000 年代より古い一群（5 点）  
(約 35,000 年前より古い)

関東地方や中部・東海地方を中心としてこれまでに集成された後期旧石器時代前半期の  $^{14}\text{C}$  年代測定例と比較してみると、以上の 5 グループのうち④の一群が環状ブロック群の形成時期にもっとも近い可能性が高いと考えた。平成 27～29 年度の調査区は完掘せずに石器群を現地に残していることや、炭化材も明確に炭化物集中を形成しているものだけでなく包含層出土の炭化材が含まれており、複数の  $^{14}\text{C}$  年

代測定結果に年代的なばらつきもある。しかし、環状ブロック群での直接的な  $^{14}\text{C}$  年代測定が行われた事例は極めて少なく、墨古沢遺跡の環状ブロック群の形成時期を絞り込めたことは、今回の調査の極めて大きな成果の一つと言えよう。

### 墨古沢遺跡の自然環境

約 34,000 年前の墨古沢遺跡周辺の自然環境を知るためにには、遺跡の近辺の低地や埋没谷などで花粉分析を行い、植生を復元することが必要である。そのため、遺跡周辺に形成された谷でボーリング調査を実施したが、約 34,000 年前後の堆積物は失われており、花粉分析を実施することはできなかった。しかし、遺跡出土の炭化材の樹種を調べることによって、断片的ではあるが、遺跡周辺の植生が見えてきた。炭化材の樹種同定の結果は、トウヒ属やヒメバラモミといったマツ科の針葉樹が多く、寒冷気候下で生育する樹種が多かった。サクラ属などの落葉広葉樹の炭化材もみられた。これらのマツ科針葉樹の樹種は現在の千葉県にはもちろん存在しておらず、中部山岳地帯の標高 2000m の山々に分布している。約 34,000 年前は、環境史的にみると最終氷期にあたり、約 24,000 年前頃の最終氷期最寒冷期に向けて、徐々に寒化化が進んでいく時期にあたる。酒々井町周辺には、寒冷気候を示す針葉樹と、冷温帶性の落葉広葉樹が混じるような針広混交林が広がっていたのだろう。

図 2 は千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で展示されている約 34,000 年前頃の南関東の風景を復元したイラストである（墨古沢遺跡そのものを復元したものではなく、当該期の南関東平野部での環状ブロック群の形成期の様子をイメージした）。南関東、特に千葉県での 35000 年前～30000 年前後の古環境を示すデータは多くないが、今後花粉分析等による古環境研究を進めていくなかで、より具体的な自然環境を復元していくことが必要である。

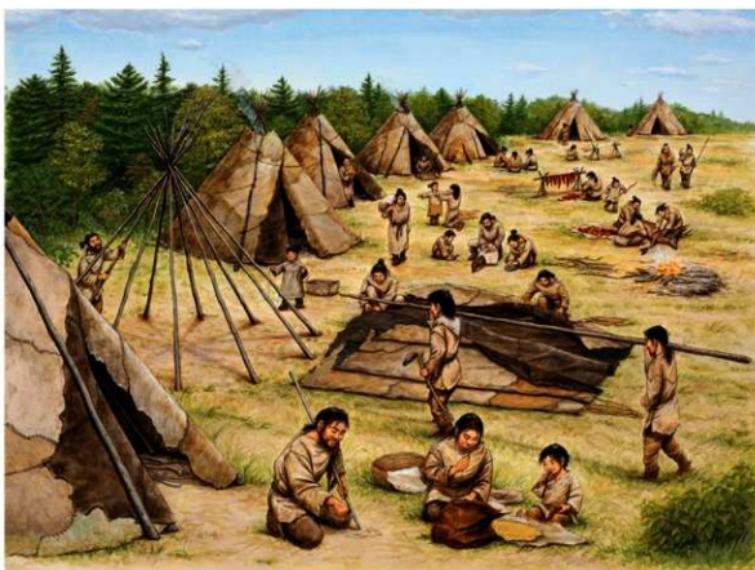
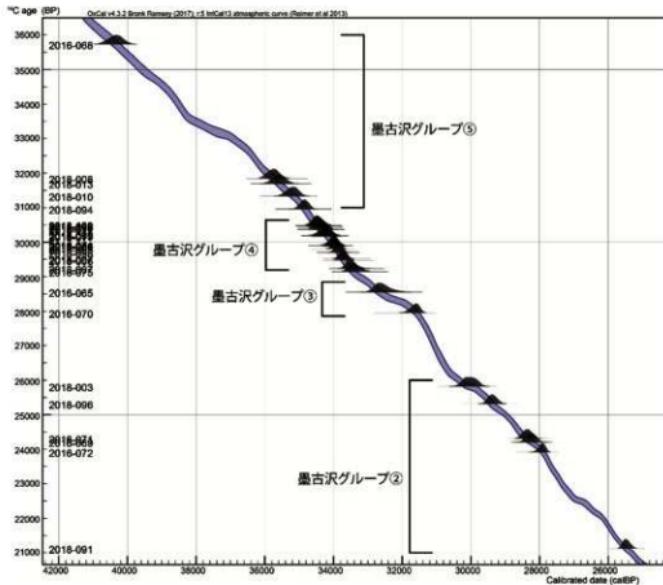


図2 墓古沢遺跡の周辺環境をイメージした復元イラスト（石井礼子画、国立歴史民俗博物館）

# 34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった

東京大学 文学部考古学研究室

教 授 佐藤 宏之

## はじめに

2010 年に日本旧石器学会が集成した日本列島全体の旧石器時代の遺跡数は、10,150 遺跡にのぼる。このうち千葉県が全国一の数となり、988 遺跡(9.7%)が登録された。旧石器時代の遺跡には、その良好な立地環境(水源や眺望・景観等)や周囲の豊かな資源(動物等の食料獲得の機会等)に恵まれたことに起因して、異なる時代に何度も繰り返し居住された痕跡(文化層と呼ぶ)が認められることがあるが、千葉県にはそうした遺跡が多い。遺跡数を文化層の総計で測り直すと、列島全域では 14,542 箇所になるが、このうち千葉県には 2,191 箇所の旧石器時代遺跡・文化層がある。率にして 15%になり、これも全国一である(日本旧石器学会 2010)。

千葉県の中でも下総台地にはこうした遺跡・文化層が集中しており、下総台地は旧石器時代を通じて日本の中でもっとも繁栄した地域であった。

## 環状集落の分布と墨古沢遺跡

日本列島からは、周辺のアジア大陸等に比べて異例なほどの数と密度からなる旧石器時代の遺跡が発見されていることから、当時非常に住みやすく活発な人間の活動が行われていたことが明らかとなっている。当時日本列島は、氷河時代の寒冷気候により 100 メートル以上の海面低下があり、古北海道半島(サハリン・北海道・クリル諸島南部がアジア大陸から南につながるひとつの半島)・古本州島(本州・四国・九州が一つの島)・古琉球諸島の三つの地理的単位=文化圏に分かれていた。そして旧石器時代を通じて大陸と陸で繋がることのなかった古本州島では、列島独特の旧石器文化が花開いた。そのひとつが環状集落である(佐藤 2019)。

墨古沢遺跡が国指定史跡に指定された理由は、後期旧石器時代前半期(38,000~28,000 年前)前葉の環状集落のほぼ半分以上が完全な形で保存された日本で唯一の遺跡であったからである。環状集落は、石器のまとまりが径 10~80 メートルほどのドーナツ状をなして分布する特異な集落であり、後期旧石器時代前半期前葉の古本州島に分布はほとんど限ら

れる。海外では類例は知られていない。中部・関東地方に分布の中心があり、これまで 118 遺跡から 146 基の環状集落が発見されているが、墨古沢遺跡以外の全ての環状集落は、発掘調査の過程で失われた。そして千葉県からは下総台地を中心に、53 遺跡 71 基(49%)の環状集落が発見されているのである(村井 2019)。

墨古沢遺跡は、下総台地のほぼ中央部に立地し、付近には環状集落が多く分布するが、その中でも中心的な位置にある。南北 70 メートル、東西 60 メートルのやや歪んだ楕円形を呈し、その規模は日本最大級である。年代測定の結果、ほぼ 34,000 年前に居住した集落であることが判明した。

## 墨古沢遺跡の性格

日本列島の旧石器時代は、氷期の寒冷で不安定な大陸性気候(DO サイクル)に支配されており、古琉球諸島や古本州島の南岸地帯を除いては、針葉樹や草原等が卓越した植生に広く覆われていたため、堅果類のような有用な植物食料資源にきわめて乏しく、そのため生活の中心は動物狩猟にあった。今日とは異なり、旧石器時代の列島には、マンモス・バイソン・ヘラジカ(古北海道半島)やナウマンゾウ、あるいはオオツノシカ・オーロックス(原始牛)などの大型草食動物が生息していた。これらの大型動物は、古本州島では最も寒くなった時期(最終氷期最寒冷期 LGM、28,000~24,000 年前)の直前までに絶滅し、以降今日までシカやイノシシといった残りの中・小型哺乳動物が分布するようになった。

墨古沢遺跡の時代にはまだ大型動物が生息していたので、環状集落の形成要因として、これらの大型動物を狩猟するために人々が集まつた跡であるとする解釈がかつて行われてきたが、そうだとすると、環状集落が特定の時期に特定の場所にまとまって出現する理由を全て説明することができない。例えば環状集落は 34,000 年前の前後の数千年間に限って出現しているが、大型動物はその後も相当の期間生き残っていたからである(佐藤 2019)。

墨古沢遺跡から出土した石器の石材は多様で、そ

の産地は北関東(安山岩・頁岩・玉髓等)を中心に、伊豆・信州(黒曜石)までを含む広域にわたるので、墨古沢に暮らした人々は広範囲を移動する生活を送っていたと考えられる。大型動物が生息していた後期旧石器時代前半期の人々は、これらを狩猟するために広域を移動する生活をおくっていたと考えられることがよく整合している。当時の下総台地は、こうした大型動物を狩猟するのに適した台地と水源が広がっており、そのため人々は盛んに繰り返し下総に集まつたのであろう。しかしながら、なぜ特定の時期に環状集落は形成されたのであろうか。

墨古沢遺跡が形成された後期旧石器時代前半期前葉は、日本列島に現生人類ホモ・サピエンスが登場した時期(38,000年前)のすぐあとに相当するので、おそらくまだ人口はそれほど多くなかったと思われる。そのため人々は、狩猟だけではなく婚姻の相手を求めて、あるいは情報の交換などの必要性から定期的に集合して、集団間の安定した関係(同盟関係)を保つ必要があったと思われる。例えば環状集落は、狩猟等の活動が低下する冬期の村であったのかもしれない。人口が少なかった当時の列島にあって、下総台地は相対的に人口が集中していた。その中で環状集落が発達したのは、環状集落が集団間の緊張関係を調節する装置としてよく機能したからであろう(佐藤 2006)。

下総台地からは、ほぼ同時期の後期旧石器時代前半期前葉の遺跡が数多く発見されていることからも、墨古沢遺跡が当時日本の中心のひとつであったことは確かであろう。狩猟を糧としていた人々にとって下総は格好の生活の適地であり、墨古沢はその典型であった。

#### 【引用参考文献】

- 佐藤宏之 2006 「環状集落の社会生態学」『旧石器研究』  
2号、47-54頁
- 佐藤宏之 2019 『旧石器時代：日本文化のはじまり』敬  
文舎
- 日本旧石器学会 2010 『日本列島の旧石器時代遺跡-日本  
旧石器(先土器・岩宿)時代遺跡のデータベース』日本  
旧石器学会
- 村井大海 2019 「第5章 考察」『墨古沢遺跡総括報告書』  
142-161頁、酒々井町教育委員会

# 全国環状ブロック群集成 2020

酒々井町教育委員会  
生涯学習課 酒井 弘志

平成 30 年度、国史跡指定に向けた墨古沢遺跡の総括報告書（酒井・村井編 2019）作成にあたり、考察において本遺跡の環状ブロック群の特徴を比較・抽出するため全国で検出された環状ブロック群の集成を行い、118 遺跡・146 基の環状ブロック群を確認することができた。その際の集成時においては、報告書で環状ブロック群と明記されていないものや部分的な検出により疑わしきもの含めて取りまとめたが、それは今後の研究の深化・進展のためにまず資料を俎上にのせていかなければならぬと考えたからでもある。しかし時間をかけて集成を行ったところではあるが、それでも恥ずかしながら知識・情報収集力不足のため、報告書刊行後にチェック漏れがいくつか出てきていることが明らかになった。

そこで、今回開催するシンポジウムをきっかけに前回の集成漏れやこの数か年で新たに検出されたもの、また前回の総括報告書の集成では紙数の都合上示すことができなかつた参考文献を補遺した再集成を実施した（表 1・2、図 1・2）。

遺跡番号や環状ブロック群番号については、前回集成の数字をそのままにし、存在が明らかになつたものから地域ごとに分けて随時追加していくため、数字が追いつらくなってしまっているが、令和 2 年 11 月末現在、133 遺跡・163 基を集計した。再集計にあたっては、基本的に前回集成同様、報告書の記載に準じて規模や点数、ブロック数等の掲載を行つたが、分布図や組成表を見直しながら規模・点数等を再計測し、訂正を行つるものもある。

また、今回も各環状ブロック群の“大きさ”に係る属性を明確にするため、類型分けを掲載した。基準は前回にならない下記の通りである。

ブロック数 A 類：20 ヶ所以上

B 類：13～19 ヶ所

C 類：7～12 ヶ所

D 類：6 ヶ所以下

出土石器数 I 類：2000 点以上

II 類：1000 点以上 2000 点未満

III 類：600 点以上 1000 点未満

IV 類：600 点未満

各類型を集計したものが表 3 であり、ここからは C IV 類が最も検出数が多いことがうかがえる。C IV 類の規模は東西 11～31m・平均約 20m、南北 11～30m・平均約 21m となることから、はなはだ単純ではあるが、直径約 20m 前後、ブロックが 7～12 ヶ所、点数 600 点未満の環状ブロック群が標準的なものと考えられ、ここから見ても墨古沢遺跡の特異性がうかがえるのではないだろうか。

酒々井町では今後も墨古沢遺跡の保存と活用を目指し、調査・研究事業を継続して進めていく予定であり、それが全国で初めて環状ブロック群の国史跡となった当遺跡の責務であると考える。その中で全国の環状ブロック群の情報を引き続き収集し、墨古沢遺跡の意義について考える基礎作業のひとつと位置づけ、肅々と続けていきたいと考えている。皆様からも資料・情報をお寄せいただければ幸いである。

## 【参考・引用文献】

- 橋本勝雄 2003 「後期旧石器時代前半期の石斧に関する一考察」『研究紀要 3』(財)印旛郡市文化財センター
  - 橋本勝雄 2006 「環状ユニットと石斧の関り」『旧石器研究』第 2 号 日本国石器学会
  - 山岡磨由子 2011 「第 3 章 まとめ」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 X X III -印西市泉北側第 3 遺跡(下層)ー』(財)千葉県教育振興財團
  - 麻生敏隆 2012 「第 4 章 まとめと考察」『上武道路・旧石器時代遺跡群(3) 一般国道 17 号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
  - 橋本勝雄 2013 「総論 環状ユニットの特質とその意義」『考古学ジャーナル』No640 ニュー・サイエンス社
  - 島立 桂 2013 「関東地方における環状ブロック群の分布と構造—南関東一」『考古学ジャーナル』No640 ニュー・サイエンス社
  - 村井大海 2019 「第 5 章 考察」『墨古沢遺跡総括報告書一下総台地に現存する日本最大級の旧石器時代環状ブロック群ー』酒々井町
  - 輕部達也 2020 「北関東地方西部平野部の環状ブロック群」『北関東の環状ブロック群 予稿集』岩宿フォーラム 2020 岩宿博物館 (2020.11.8 開催)
- (参考・引用文献は年代の古い順に記載)

表1 千葉県内 環状ブロック群集成

令和2年1月(No.1)～5月(No.5)実施調査

ブロッ ク群 No.	遺跡名・地点	所在地(市町村)	門番号/定名	出土石器アソシエーション	出土石器アソシエーション	遺存年層	主要石器	類型	備考・文摘								
									東	西	北	南	ナ	イ	チ	形	刻
1	縄古式撒砂	千葉県印西市酒々井町	60	70	61	1386	60	○	○	○	○	○	○	○	○	A.1	新潟第一三井町遺跡古物遺物追加報告書より、千葉県文化財保護委員会による日本最大級の旧石器時代遺跡プロジェクト群一酒々井町
2	中山新田1遺跡	千葉県印西市酒々井町	16	8	5	72	0	○	○	○	○	○	○	○	○	D.V	山梨県1968年常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書IV～元野原、鷺人、
3	中山新田1遺跡	千葉県印西市酒々井町	14	16	5	182	0	○	○	○	○	○	○	○	○	D.V	山梨県1968年常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書V～千葉県印西市酒々井町
4	鷺人遺跡	千葉県印西市酒々井町	30	15	453	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	D.V	山梨県1968年常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書VI～鷺人
5	大松遺跡	千葉県印西市酒々井町	18	16	6	263	0	○	○	○	○	○	○	○	○	D.V	山梨県1968年常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書VII～大松
6	原山遺跡	千葉県印西市酒々井町	40	54	20	2393	0	○	○	○	○	○	○	○	○	A.1	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第589集
7	原山遺跡	千葉県印西市酒々井町	38	22	15	456	0	○	○	○	○	○	○	○	○	B.IV	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第631集
8	小山台遺跡	千葉県印西市酒々井町	40	49	15	1672	0	○	○	○	○	○	○	○	○	B.IV	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第10～柏原市小山
9	貴船前遺跡	千葉県印西市酒々井町	27	23	12	907	0	○	○	○	○	○	○	○	○	C.III	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第3～柏原貴船前
10	鍋原遺跡	千葉県印西市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	C.III	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第637集
11	由野谷半久保遺跡	千葉県印西市	(68)	(58)	5	34	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	C.III	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第638集
12	恩井上/内遺跡1.56ブロック	千葉県印西市	(22)	(22)	6	147	不明	○	○	○	○	○	○	○	○	B.II	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第639集
13	五本松No.3遺跡	千葉県印西市	18	27	9	720	0	○	○	○	○	○	○	○	○	C.III	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第640集
14	恩井上/内遺跡1.56ブロック	千葉県印西市	9	13	4	127	0	○	○	○	○	○	○	○	○	D.V	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第641集
15	林崎遺跡8-11ブロック	千葉県印西市	46	68	38	1474	0	○	○	○	○	○	○	○	○	A.III	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第642集
16	泉側第3遺跡	千葉県印西市	(43)	43	4	136	60	○	○	○	○	○	○	○	○	-	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第643集
17	泉側第3.1遺跡	千葉県印西市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	新潟第一石器時代遺跡千葉県印西市酒々井町遺跡報告書第644集

表1 千葉県内 環状ブロック群集成

遺跡名・地点 No.	遺跡名・地点 No.	所在地(市町村)	遺跡定名	主要石器						参考文献
				出土石器 数	出土石器 種類	遺存石器 種類	石器 形態	石器 材質	石器 加工	
13	15	館水東岸跡北側斜面ブロック群	千葉県印西市 千葉県印西市	15	6	88	0	0	0	DV
14	16	館水東岸斜面ブロック群	千葉県印西市 千葉県印西市	17	16	546	0	0	0	○ CV
15	17	角田台遺跡動物点	千葉県印西市	65	60	10	1172	0	0	○ CII
16	18	角田台遺跡第11地点	千葉県印西市	20	22	11	927	0	0	○ CIII
17	19	芝山遺跡第1ブロック	千葉県印西市	18	(16)	5	194	40	0	DIV
18	20	芝山遺跡第2ブロック	千葉県印西市	(35)	5	180	50	0	0	-
19	21	ワサル山遺跡階段ブロック	千葉県印西市	11	12	3	22	0	0	○ DV
20	22	坊山遺跡第5文化層S11-14+60~65	千葉県印西市	22	20	10	708	0	0	○ CIII
21	23	白幡前遺跡第5文化層S21-S22地点	千葉県印西市	(30)	(30)	3	237	60	0	-
22	24	西芝山南遺跡田区	千葉県印西市	22	27	12	417	0	0	○ DV
23	25	西芝山南遺跡N区	千葉県印西市	14	21	10	208	0	0	○ CIV
24	26	勝浦遺跡第2ブロック	千葉県印西市	22	21	11	485	0	0	○ CIV
25	27	池ヶ崎遺跡	千葉県印西市	30	28	18	740	0	0	BIII
26	28	小堀内遺跡第1地点	千葉県印西市	46	52	11	628	0	0	○ DV
27	29	出口・墨井遺跡石器集中4	千葉県印西市	29	23	10	401	0	0	○ DV
28	30	天神最上(空港No.6)遺跡石器集中4	千葉県印西市	15	25	10	123	0	0	○ DV
29	31	十余三輪跡西(空港No.8)遺跡石器集中4	千葉県印西市	24	24	9	143	0	0	○ DV
30	32	十余三輪跡西(空港No.8)遺跡石器集中4	千葉県印西市	16	20	10	199	0	0	○ DV
31	33	東峰跡空(西)遺跡(空港No.1)エリ72	千葉県印西市	30	26	11	869	0	0	CIII
32	34	電鉄跡空(西)遺跡(空港No.1)エリ73	千葉県印西市	24	27	8	240	0	0	CV

表1 千葉県内 環状プロック群集成

調 査 地 名 群 名 No.	調査名・地点	所在地(市町村)	円環測定空		出土石器類	遺存年	主要石器					参考文献
			東	西			出土石器類	台形石器	ナイフ形石器	縫合切削器	石器	
27	35 金沢台跡	千葉県夷隅郡芝山町	20	20	8	306	0	○	○	○	○	CIV
28	36 南三里塚原第1遺跡第1遺跡洋ナシロック群	千葉県成田市南三里塚原第1遺跡洋ナシロック群	48	41	29	632	0	○	○	○	○	AIII
38	37 南三里塚原第1遺跡洋ナシロック群	千葉県成田市南三里塚原第1遺跡洋ナシロック群	21	22	8	305	0	○	○	○	○	CIV
29	39 古込(宝篋55)遺跡	千葉県成田市古込	19	11	299	0	○	○	○	○	○	古墳時代
30	40 鎌子六戸跡	千葉県鎌ケ谷市鎌子六戸	10	10	5	25	0	○	○	○	○	DIV
31	41 観音遺跡ナシロック	千葉県佐倉市	60	50	13	1805	0	○	○	○	○	BII
32	42 大根遺跡第1地点	千葉県佐倉市大根	16	17	6	65	0	○	○	○	○	DIV
33	43 四ツ馬遺跡西側遺跡ナシロック群	千葉県佐倉市四ツ馬	(62)	(22)	3	130	不明	○	○	○	○	DIV
34	44 四ツ馬遺跡東側遺跡ナシロック群	千葉県佐倉市四ツ馬	16	18	8	248	0	○	○	○	○	CIV
128	157 木羽根遺跡-08グリッド周辺	千葉県夷隅郡木羽根町	29	36	16	1381	0	○	○	○	○	BII
35	46 大道遺跡第1ユニット	千葉県夷隅郡木羽根町	20	25	3	58	30	○	○	○	○	DIV
36	47 錦丘遺跡第1プロック群	千葉県夷隅郡木羽根町	20	17	13	1370	0	○	○	○	○	BII
37	48 有吉跡第28地点	千葉県夷隅郡木羽根町	(68)	(68)	3	271	70	○	○	○	○	DIV
38	49 城ノ台遺跡第1地点	千葉県夷隅郡木羽根町	14	20	4	316	0	○	○	○	○	CIV
39	50 芦沼大六天御跡A5-Aプロック	千葉県夷隅郡木羽根町	43	20	9	715	50	○	○	○	○	CIII
40	52 五引跡D区	千葉県夷隅郡木羽根町	42	37	12	1582	0	○	○	○	○	DIV
51	53 荘66六つ石遺跡ナシロック	千葉県夷隅郡木羽根町	13	12	5	200	0	○	○	○	○	DIV
54	55 荘66六つ石遺跡ナシロック	千葉県夷隅郡木羽根町	9	9	5	90	0	○	○	○	○	DIV
		千葉県夷隅郡木羽根町	11	10	4	175	10	○	○	○	○	DIII
		千葉県夷隅郡木羽根町	14	22	5	704	40	○	○	○	○	DIII

表1 千葉県内 環状ブロック群集成

遺跡番号群 No.	遺跡名・地点 No.	所在地(市町村)	開拓年定格	出土石器 数	主要石器						参考文献	
					出土石器 数	遺存 状況 (~)	出土石器 種類	形態 ~	ナイフ ~	台形 石器	彫刻 石器	
42	56 横山(2)遺跡Cブロック	千葉県市原市	12	13	7	99	0	○	○	○	○	CIV
42	57 横山(2)遺跡C'ブロック	千葉県市原市	14	19	7	147	0	○	○	○	○	CIV
43	58 中瀬(2)遺跡(1)第10ブロック	千葉県市原市	14	16	5	163	0	○	○	○	○	DIV
44	59 大瀬山田台灣跡N6-6Bブロック	千葉県大網白石市	24	26	7	317	0	○	○	○	○	CIV
45	60 屋山遺跡	千葉県千葉市	(35)	(28)	9	132	50	○	○	○	○	-
46	61 西大野遺跡第1C区	千葉県千葉市	(26)	(26)	4	169	不明	○	○	○	○	-
47	62 東大野第2遺跡	千葉県千葉市	60	60	29	792	0	○	○	○	○	AIII
48	63 台山遺跡第2ユニット	千葉県船橋市	29	30	8	456	10	○	○	○	○	CIV
48	64 台山遺跡第3ユニット	千葉県船橋市	20	18	7	153	10	○	○	○	○	CIV
49	65 開墾遺跡Aユニット	千葉県船橋市	13	12	6	825	0	○	○	○	○	DIII
49	66 開墾遺跡Bユニット	千葉県船橋市	(20)	20	7	556	50	○	○	○	○	CIV
50	67 文藝遺跡石器集中地点II~IV	千葉県船橋市	(54)	(54)	6	134	不明	○	○	○	○	-
51	68 緑ヶ谷郡原點第I 文化層	千葉県東金市	17	11	9	279	0	○	○	○	○	CIV
51	69 緑ヶ谷郡原點第II 文化層	千葉県東金市	14	11	9	106	0	○	○	○	○	CIV
52	70 土持台灣跡Aブロック	千葉県香取郡香取町	12	13	8	113	0	○	○	○	○	CIV

令和2年11月(No.1)-  
古跡地図書庫

## 表2 千葉県外、環状プロツク群集成

群 組 別 No.	調 査 地 名・ 地 点 名	所在都(市町村)	出 土 石 器 類 数	円筒形穿孔径				主要石器				編 考・文 獻
				東 北 ～ 田 口	南 ～ 田 口	出土 石 器 種 類 数	遺 存 年 代 ～ ～	台 形 石 器 ～	形 状 石 器 ～	石 刀 形 石 器 ～	石 刀 形 石 器 ～	
54 72	共栄3遺跡	北海道上川郡清水町	45	34	8	1539	0	○	○	○	○	C.II
55 73	家の下遺跡	秋田県山本郡三種町	25	32	16	16979	0	○	○	○	○	B.I
56 74	地蔵山遺跡	秋田県秋田市	30	28	14	4447	10	○	○	○	○	B.I
57 75	愛宕山遺跡	岩手県北上市	22	(22)	9	2098	70	○	○	○	○	B.I
58 76	南原工業団地遺跡	岩手県北上市	36	32	31	5723	0	○	○	○	○	A.I
59 77	板山原8号遺跡	福島県会津若松市	14	10	6	216	0	○	○	○	○	D.IV
60 78	太谷上原遺跡 第2アーチフ L33 M32+33 N33Z92.92	福島県双葉郡楢葉町	34	30	5	273	30	○	○	○	○	D.V
61 79	大志白瀬遺跡群第1地区	福島県宇都宮市	14	12	6	397	0	○	○	○	○	D.V
62 80	上林遺跡	福島県佐野市	50	80	64	3480	0	○	○	○	○	A.I
63 81	小倉木神社遺跡群第1～第5アーチフ	福島県福井市	17	15	5	101	10	○	○	○	○	D.V
64 82	並松遺跡B地点	福島県芳賀郡茂木町	15	15	5	1113	0	○	○	○	○	D.III
65 83	前郷遺跡	茨城県日立市	21	16	9	2329	0	○	○	○	○	C.1
66 84	分原八幡遺跡群第1集中地点	群馬県太田市	18	19	9	257	0	○	○	○	○	C.IV
67 85	和田遺跡	群馬県高崎市	14	14	5	154	0	○	○	○	○	D.V
68 86	十二社遺跡	群馬県桐生市	22	19	16	400	0	○	○	○	○	B.V

令和2年11月(No.1)付追加地點

## 表2 千葉県外、環状プロック群集成

遺跡 No.	遺跡名・地点 No.	所在地(市町村)	出土地点定性 東西南北 ←↑→←	出土石器 アロフタ 数	主要石器						参考文献	
					遺存 年 (~)	出土石器 枚	遺存 年 (~)	出土石器 枚	形 態	石器 類型		
87	武井遺跡北・プロック	群馬県桐生市	28	39	10	100	20	○	○	○	○	CW
69	158 武井遺跡北・プロック	群馬県桐生市	(50)	(50)	9	170	25	○	○	○	○	-
70	下船千代遺跡第Ⅱ文化層	群馬県伊勢崎市	43	40	15	2037	0	○	○	○	○	B1
71	88 今井三輪床跡跡第IV文化層B地点	群馬県伊勢崎市	40	35	16	414	0	○	○	○	○	BIV
72	90 今井三輪床跡跡第IV文化層C地点	群馬県伊勢崎市	40	55	13	823	0	○	○	○	○	BIII
73	91 三和工業用地1 潟崎第Ⅰ文化層	群馬県伊勢崎市	72	64	25	1724	0	○	○	○	○	AII
74	92 潟崎江西宿跡跡第Ⅳ文化層	群馬県伊勢崎市	24	20	5	391	0	○	○	○	○	DIV
75	151 舞台遺跡E区群	群馬県伊勢崎市	24	26	8	206	0	○	○	○	○	CIV
76	94 古埃遺跡I・AK	群馬県伊勢崎市	31	19	7	258	0	○	○	○	○	DIV
77	95 古埃遺跡I・CK	群馬県伊勢崎市	10	12	6	86	20	○	○	○	○	BIV
78	96 白幡民部遺跡跡区	群馬県高崎市	16	22	14	523	0	○	○	○	○	CIII
79	97 三ツ子沢中遺跡	群馬県高崎市	35	40	9	726	0	○	○	○	○	CIV
80	98 白川余松遺跡Ⅱ地区	群馬県高崎市	18	21	10	541	0	○	○	○	○	CIV
81	99 多比良道部野瀬跡区	群馬県高崎市	24	22	9	599	0	○	○	○	○	CIV

令和1年1月(hh---シ)の追加記載

表2 千葉県外・環状ブロック群集成

令和2年1月(No.1)～(No.2)の調査結果)

遺跡名・地点 No.	プロ タ 群 No.	所在地(市町村)	出土石器 数	主要石器						備考・文献		
				土器	石器	骨	蚌	ナイフ	石器	断面		
81	160	春岡北山遺跡1～9ブロック	群馬県藤岡市	25	22	9	325	0	○	○	○	DIV
122	150	春岡北山文化層第1文化層第3石器集中地	群馬県藤岡市	20	16	14	664	0	○	○	○	BIII
129	159	白石原遺跡	群馬県高崎市	(28)	(28)	4	0	○	○	○	○	-
130	160	三ツ木東原遺跡	群馬県藤岡市	(23)	(23)	-	-	-	-	-	-	-
82	101	白石下原遺跡A区	群馬県甘楽郡甘楽町	18	18	6	403	0	○	○	○	DIV
82	102	白石下原遺跡B区	群馬県甘楽郡甘楽町	16	16	4	120	0	○	○	○	DIV
83	84	天引原遺跡A区	群馬県邑楽郡天城町	30	30	17	268	0	○	○	○	DIV
83	85	天引原遺跡Bブロック群	群馬県邑楽郡天城町	16	16	7	622	0	○	○	○	CIV
86	105	今井見切原遺跡IV文化層山地点	群馬県前橋市	38	45	37	487	10	○	○	○	AII
87	106	今井見切原遺跡第五文化層山地点	群馬県前橋市	39	38	30	1567	10	○	○	○	AII
86	107	天ヶ原遺跡第3文化層II・III区	群馬県伊勢崎市	22	22	11	451	10	○	○	○	CIV
87	168	紫波北三木堂II・鷲群第3文化層	群馬県伊勢崎市	28	28	12	704	0	○	○	○	CIII
88	109	大上原第4文化層II区	群馬県伊勢崎市	30	(30)	6	457	50	○	○	○	DIV
119	147	上泉原ノ瀬遺跡第3文化層第3文化層	群馬県伊勢崎市	22	25	2	255	0	○	○	○	DIV
89	110	芳賀東部田代遺跡第2文化層II区	群馬県伊勢崎市	29	29	6	213	20	○	○	○	DIV
89	111	芳賀東部田代遺跡第2文化層III区	群馬県伊勢崎市	15	20	10	301	0	○	○	○	CIV

## 表2 千葉県外・環状ブロック群集成

令和元年1月(No.—シ)付別冊地図

遺跡名・地点 No.	遺跡名・地点 No.	所在地(市町村)	出土地(市町村)	円周距離定径		出土石器	遺存石器	主要石器				編考文献
				東	西			台	ナ	イ	チ	
120 148 内海遺跡区入地点			銚馬県前崎村	29	25	8	319	0	○	○	○	○ CIV
131 161 富田高石遺跡北地点			銚馬県前崎村	22	24	8	220	0	○	○	○	○ CIV
90 112 新光里遺跡			銚馬県高崎村	23	23	25	722	0	○	○	○	○ AIII
91 113 清河寺前原遺跡第2地点		埼玉県大宮市	埼玉県大宮市	14	23	11	1476	0	○	○	○	○ CII
125 154 塩久保町遺跡第IX群石器集中1~8		埼玉県入間郡三芳町	埼玉県入間郡三芳町	14	21	8	1250	0	○	○	○	○ CII
132 162 斯場遺跡		埼玉県日高市	埼玉県日高市	-	-	-	-	-	-	-	-	詳細不明。
92 114 野木遺跡文化層		東京都調布市	東京都調布市	28	23	19	4481	0	○	○	○	○ B.I
93 115 旗ヶ島町遺跡石器時代		東京都西东京市	東京都西东京市	55	44	12	1056	0	○	○	○	○ CII
94 116 下り本邑遺跡第3点		東京都東久留米市	東京都東久留米市	13	14	6	282	0	○	○	○	○ DIV
95 117 多摩川遺跡第IX期		東京都府中市	東京都府中市	23	21	18	569	0	○	○	○	○ BV
96 118 鈴木遺跡都道府県・小学校D地点		東京都小平市	東京都小平市	(45)	45	10	1088	30	○	○	○	○ CII
97 119 高井戸東遺跡(西台地)第IX中文化層		東京都杉並区	東京都杉並区	40	32	15	674	0	○	○	○	○ B.III
98 120 武藏台遺跡X文化層		東京都西中野	東京都西中野	18	17	10	不明	0	○	○	○	- 横山第一・川口 銀座1984年横濱台跡 I 式鏡分布分析西方地区の調査実施報告書 [小平市理
99 121 羽根木台遺跡第八文化層		東京都三鷹市	東京都三鷹市	15	20	15	1430	30	○	○	○	○ BH
100 122 増久保城跡馬込地区第6文化層		神奈川県相模原市	神奈川県相模原市	29	27	7	1384	0	○	○	○	○ CII
101 123 佐野川遺跡古墳群		長野県上伊那郡佐野町	長野県上伊那郡佐野町	26	24	10	1666	0	○	○	○	○ CII
102 124 佐野川遺跡馬込地区		長野県上伊那郡佐野町	長野県上伊那郡佐野町	32	28	20	3629	20	○	○	○	○ A.I
103 125 佐野川遺跡2番・3番		長野県上伊那郡佐野町	長野県上伊那郡佐野町	18	16	18	3513	10	○	○	○	○ B.I

表2 千葉県外環境状プロツク群集成

遺跡名・地点 No.	所在郷(市町村) 群 No.	開拓年定名	出土 石器 数	主要石器						備考・文 類
				土 器	石 器	石 器	石 器	石 器	石 器	
102 126 向日市遺跡 I 石器文化	東北 ～ ～ ～	長野県上水内郡信濃町	25	30	9001	0	0	0	0	A1
103 127 上久原遺跡 上原 I 石器文化	長野県上水内郡信濃町	30	25	9	779	0	0	0	0	CIII
104 128 上久原遺跡 上原 I b石器文化	長野県上水内郡信濃町	20	38	10	846	0	0	0	0	CIII
105 129 大久保遺跡 大久保 I 遺跡 A石器文化	長野県上水内郡信濃町	24	22	6	296	0	0	0	0	DIV
106 130 大久保遺跡 大久保 I b石器文化	長野県上水内郡信濃町	(28)	28	9	657	40	0	0	0	-
107 131 貴ノ木遺跡 第3地点	長野県上水内郡信濃町	40	68	33	7092	0	0	0	0	A1
108 132 丹振日向跡	長野県中伊那郡辰野村	25	30	9	99	0	0	0	0	CIV
109 133 釣ヶ平第3遺跡	長野県上伊那郡辰野町	10	12	9	713	5	0	0	0	CIV
110 134 立科遺跡	長野県佐久市	20	21	9	211	0	0	0	0	CIV
111 135 中史代富 I 遺跡 富V文化圈 A地区	静岡県沼津市	9	11	8	1791	0	0	0	0	CIV
112 136 土手上遺跡-C区-1(HBV)	静岡県沼津市	28	30	30	2293	0	0	0	0	A1
113 137 西阿波斯地区-HBV(I)	静岡県沼津市	10	10	14	339	0	0	0	0	BIV
114 149 西河津所第二東名山68号点第 I 文化層	静岡県沼津市	12	9	13	1844	0	0	0	0	BII
115 138 梅ノ木只遺跡-2ア	静岡県沼津市長泉町	25	19	4	218	0	0	0	0	DIV
116 139 梅ノ木只遺跡-2アB	静岡県沼津市長泉町	26	(26)	6	196	0	0	0	0	-
117 140 墓/阪倉跡	奈良県生駒郡三郷町	15	13	18	794	0	0	0	0	BIII
118 141 七日市遺跡(G+H区)	兵庫県水上郡日置町	15	26	11	759	20	0	0	0	CIII
119 142 七日市遺跡(第 II 文化層)NACプロジェクト	兵庫県水上郡日置町	30	15	9	1659	0	0	0	0	CII
120 143 中山西遺跡	岡山県真庭市	11	12	6	1158	0	0	0	0	DII

表2 千葉県外、環状ブロック群集成

令和2年11月(No.1)～令和3年6月

ブロ ック 群 名・ 地點 No.	所在施設(市町村)	出土地点定名	出土石器 種類	出土石器 個数	遺存状況	主要石器	備考・文 獻
116	144 原田遺跡7層	鳥取県仁多郡奥出雲町	土石器	15	16	9	CIV 伊勢原子・石橋子等2002「原田遺跡(仁多郡原田7層)」尾原ダム、 津波による海蝕又は河川堆積堆積報告第2号
117	145 石ノ木遺跡附跡区	熊本県球磨村	土石器	31	28	15	B1 日本、直近1996「日本遺跡群Ⅱ 第5回国民文化財選定報告書第3号」 中心部の209件調査、根拠は未記載。
118	146 曲野遺跡第3調査区	熊本県球磨村	(33)	(31)	15	476	BIV 日本、直近1996「日本遺跡群Ⅱ 第5回国民文化財選定報告書第3号」 付資料、2001年球磨川で露頭した古墳時代の北側斜面に立つ石碑の発見。
133	163 ク原遺跡	熊本県球磨郡錦町	土石器	(19)	(19)	9	BIV 古墳時代の北側斜面に立つ石碑の発見。
123	152 東野原第3調査第II文化ゾンガクル	宮崎県日向市東野原町	土石器	16	17	4	DIV 2004年「東野原第3調査」実施調査報告書(宮崎県立博物館)。
124	153 立野第5遺跡遺層	宮崎県日向市豊島町	土石器	20	17	10	CIII 古墳時代の北側斜面に立つ石碑の発見。

遺跡  
数(千箇所以上)

89

77

合計
全 国
133 163

表3 環状ブロック群類型別集計表

類型	累計		
	A I	A II	A III
A I	2	1	0
A II	1	3	1
A III	0	0	0
A IV	0	0	0
B I	0	6	6
B II	5	2	2
B III	1	4	5
B IV	2	7	9
C I	0	1	1
C II	2	9	11
C III	7	7	14
C IV	22	15	37
D I	0	0	0
D II	0	2	2
D III	2	0	2
D IV	15	16	31
不明	13	10	23
合計	74	89	163

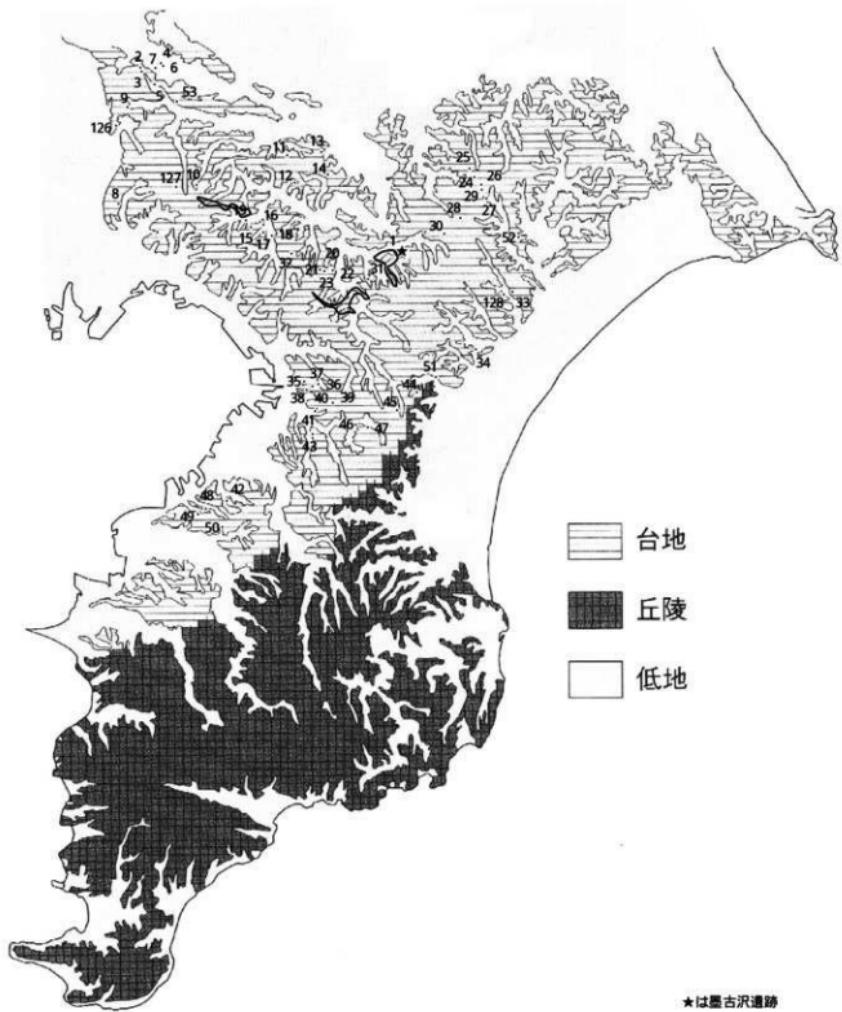


図1 千葉県環状ブロック群分布図

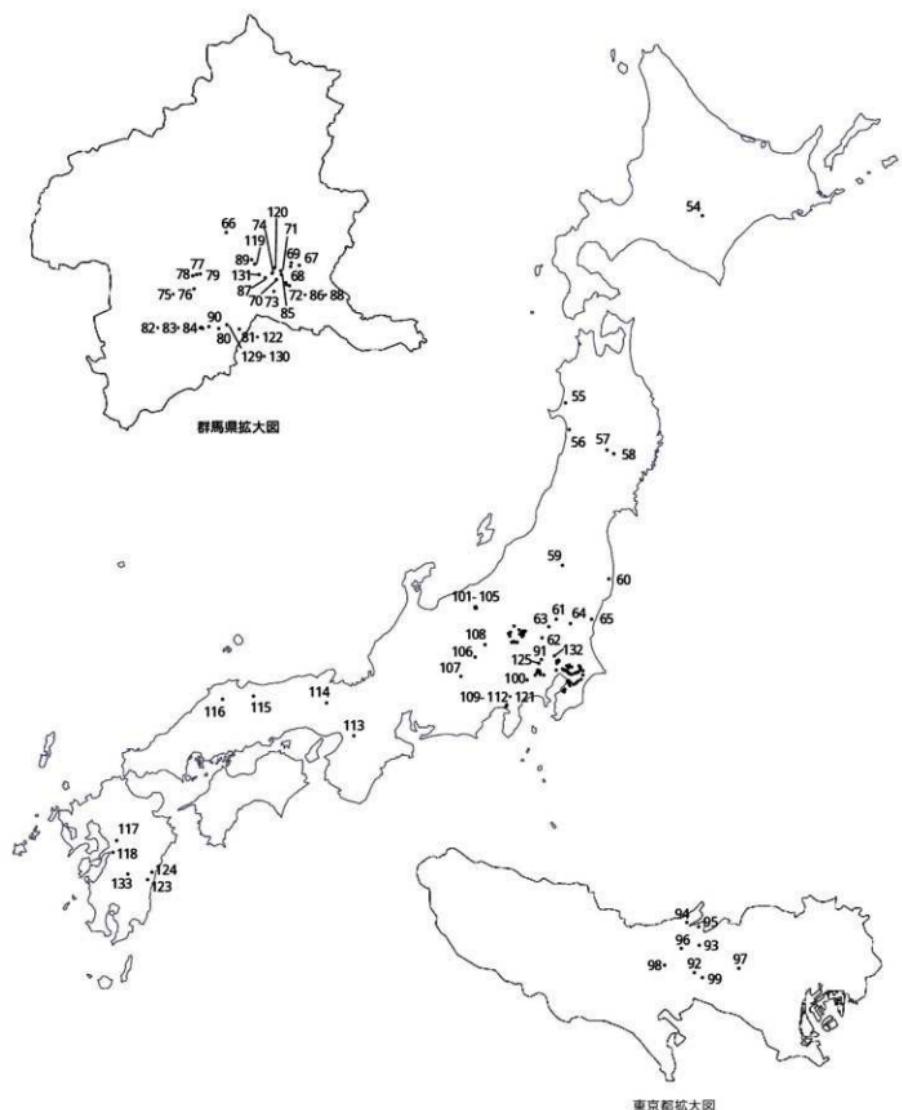


図2 全国環状ブロック群分布図

墨古沢遺跡国史跡指定1周年記念シンポジウム  
「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」  
**予 編 集**  
発行 令和2年12月5日  
編集 酒々井町教育委員会  
〒285-0922  
千葉県印旛郡酒々井町中央台 4-10-1  
TEL 043-496-5334 FAX 043-496-5323  
E-mail: syougaku@town.shisui.chiba.jp